

教科別 授業創造プラン（調査結果の傾向の分析と日頃の授業に基づく対策）
（ 日野市立平山中学校 音楽 ） 実技教科

今までの授業

- ①知識・技能について
知識では、音楽の基本的な楽典や読譜について、繰り返し学習を行い、定着を図っている。
器楽や歌唱の技能では、基礎的な奏法や発声方法を定着させ、演奏することや歌うことへの苦手意識をなくすために、肯定的な声かけを意識して授業を行っている。
- ②思考判断表現について
ワークシートに自分の考えを記入したり、他の人の意見を聴いて考えを深められるような授業を心がけている。
どのようなことを記入するのか、どのように感じたかを具体的に記入するように指導している。
- ③主体的に取り組む態度について
生徒が主体的に取り組めるようリーダーを立て、進行させるような帯活動を行っている。
また、パート練習などのグループ活動も取り入れ、意見交流ができるように時間設定している。

課題

- ①基礎的な楽典の知識理解の定着に個人差があるように感じる。単元ごとに出てくる音楽用語や音楽記号などをその都度確認し、共通理解を図る。
授業内では理解をしているが、定期テストや確認テストを行うと、理解できていない生徒が多い。
歌うことに対して抵抗感がある生徒が多く、技能の観点の低い生徒が多い。
- ②自分が感じた思いやイメージを言葉や文章で表すのが苦手な生徒が多い。また、どんなところがどのようによかったかなど具体的に記入することがまだ定着していないので、どのように記入すればよいか分かるようなワークシート等に記入する際に、繰り返し記入の仕方について指導する必要がある。
- ③グループ活動では、意見を発言できる生徒と発言できない生徒がおり、班によって意見交流が滞ってしまうことがある。
鑑賞の授業では、教員からの一方通行の授業となってしまうことがあるので、生徒が主体的に活動できる取り組みを行っている。

授業改善の具体的な方策

第1学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ①授業で身につけさせたい力の定着を図るために、前時の復習を必ず行う。
- ②自分の思ったことや感じたことを音楽と関連付けて、言葉や文章にできるように指導していく。
- ③帯活動を定着させ、生徒が主体的に意見を伝えあえる活動にする。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ①基礎的な楽典の定着を行うために、単元ごとに復習確認テストを行う。
- ②授業アンケートの結果から、視覚的な工夫が分かりにくいという生徒が複数いたので、生徒に分かりやすい板書やワークシートの工夫を行う。
- ③リーダーの育成を図り、自分の得意なことを発揮できるような場面を多く設定する。

第2学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ①楽典など音楽の基礎的な知識の定着を図る。
- ②自分の意見を発言することが苦手な生徒が多いので、積極的に意見を発言したり、鑑賞文を書く活動を多く取り入れる。
- ③生徒からの活発な発言を出すために、全体への発問を多くする。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ①歌唱に対して苦手意識をなくすために、発声方法を指導したり、それぞれの良い部分をのびしていく声かけをする。
- ②授業アンケートの結果から、視覚的な工夫がされていないと感じる生徒が複数いたのでICTの活用を行い、分かりやすいワークシートを作成する。
- ③受け身の生徒が多いので、グループ活動を多く取り入れ、意見交流できるようにする。

第3学年

【引き続き重点的に取り組むこと】

- ①学年の中で、基礎的な楽典の定着に差があるので、共通理解ができるよう前回の授業を復習する。
- ②自分の考えを文章にすることができる生徒が多いので、学習内容や音楽的な要素と関連付けて記入できるように指導していく。
- ③ワークシートにまとめるなど、真面目に取り組む生徒が多いので、全体で発言できるよう発問を多く設定する。

【授業の一部または全部を改善すること】

- ①生徒同士の教え合い学び合いの時間を設定する。
- ②グループワークを多く設定し、意見交流をする活動を取り入れていく。
- ③授業アンケートの結果から、伝えあったりする授業があまり行われていないと感じる生徒が複数いたので、多くの場面で自分の意見を発言できるグループ活動などを多く設定する。

**具体的方策には「命の大切さを実感しながら理解
することができる取り組み」を入れてください。
ただし「全教科必ず」ではなく、「入れられる教科
は積極的に」とのことです。**